

う問おう！

— 動労千葉の80春闘方針 —

春闘討
論資料
その最終回

日刊 動労千葉

80. 4. 8
NO. 397

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電二三八〇九・公衆電話）（22）七二〇七

三里塚—反合春闘 勝利の中に、 労働者の未来は拓かれる！

これまで計四回にわたって、賃金問題を主軸に八〇春闘での焦点を大まかに見てきた。八〇春闘の激しさ、既成指導部の総破綻という極めて冷徹な現実をとりえて、「だから労働者は闘えない。」「情勢をかえりみず、要求を押し立てて闘ってはならない。」と直結させる指導の誤りを徹底的に粉碎しなければならぬという事である。敵の迷惑、破綻した既成指導部の迷惑がいかなるものであれ、八〇春闘全体を通して、日本労働運動は、「沈滞と階級協調」や、ましてや「本部」反動分子の口ぐせ「冬の時代、死の時代」にスムーズに向うものではなく、「激動と流動化、新しいものが古いものをおしのけ、闘うものが自力で情勢をきりひらいて進む」八〇年代本格的な前進の時代という本質的な流れを、しっかりとつかみ主体的にこれを牽引していく立場こそが求められている。八〇春闘下の敵の攻撃の性格は、日本資本主義の本質的矛盾と体制的危機にねざした攻撃であり、ひいては戦後労働運動の全てを解体してゆく攻撃であるが故に、真正面の激突の避けられない性質のものである。そして、八〇春闘の激突を通じて、新しい労働運動が育ち、前進するのである。

現に、多くの職場で、各単産・単組の春闘討論集会や機関で、今や、上から押しつけられた「八〇ガイドライン」を弾劾し、独自の賃金要求、独自の闘争体勢をうち立てて進む傾向は一挙的に進行している。総評系のみならず、同盟翼下の海員組合でさえ上部の指導を不満とし執行部が不信任されたり、私鉄東武の労働者は独自の七万円要求の闘いに入った。

このような生産点の流動化の中で「ストなし春闘」「八〇」押しつけの推進者たる富塚事務局長もついに「官民総結集で私鉄ストにあわせた強力な戦術配置」にふみ切らざるを得なくなっている現実がある。われわれは、この現場労働者の力をこそ全面的に信頼し、新しい闘いを再構築して

激動の中でこそ新しい運動の芽ばえ

八〇春闘をとらえるに当って最も重要な事は、敵の攻撃の激しさ、既成指導部の総破綻という極めて冷徹な現実をとりえて、「だから労働者は闘えない。」「情勢をかえりみず、要求を押し立てて闘ってはならない。」と直結させる指導の誤りを徹底的に粉碎しなければならぬという事である。敵の迷惑、破綻した既成指導部の迷惑がいかなるものであれ、八〇春闘全体を通して、日本労働運動は、「沈滞と階級協調」や、ましてや「本部」反動分子の口ぐせ「冬の時代、死の時代」にスムーズに向うものではなく、「激動と流動化、新しいものが古いものをおしのけ、闘うものが自力で情勢をきりひらいて進む」八〇年代本格的な前進の時代という本質的な流れを、しっかりとつかみ主体的にこれを牽引していく立場こそが求められている。八〇春闘下の敵の攻撃の性格は、日本資本主義の本質的矛盾と体制的危機にねざした攻撃であり、ひいては戦後労働運動の全てを解体してゆく攻撃であるが故に、真正面の激突の避けられない性質のものである。そして、八〇春闘の激突を通じて、新しい労働運動が育ち、前進するのである。

このように生産点の流動化の中で「ストなし春闘」「八〇」押しつけの推進者たる富塚事務局長もついに「官民総結集で私鉄ストにあわせた強力な戦術配置」にふみ切らざるを得なくなっている現実がある。われわれは、この現場労働者の力をこそ全面的に信頼し、新しい闘いを再構築して



— 労農連帯の道が80年代労働者の未来をきりひろく — (79・10・22 スト前夜集会)

三里塚—反合春闘で着実に
前進きりひろく動労千葉

動労千葉は第二回定期委員会で八〇春闘を闘う

に当って、

第一に、三里塚を闘う八〇春闘。
第二に、三五万人体制粉碎Ⅱ反合闘争を貫徹する八〇春闘。

第三に、動労大改革Ⅰ労働運動の戦闘的再生を目指す八〇春闘。

この三つの視点を確立し、闘ってきた。

この動労千葉の「三里塚Ⅰ反合」春闘は着々と成果を積み上げ、八〇年代にむかっている新しい出発点を自力できりひらきつつある。すでにそれは、

第一に 三・三〇三里塚闘争への圧倒的結集(一〇名をテコに燃料を断ち廃港を勝ちとる大きな展望を切りひらき、

第二に 日常的反合運転保安闘争のつみ上げを基礎に新採ワク拡大、動労千葉結集の勝利(動力車職場配属の四五名中三三名を獲得)

第三に 三月三十一日「本部」反動分子のデマ・妨害をうち破って、支部大会決定をもって佐倉支部の仲間が動労千葉への結集を決断し、組織強化と動労大改革への大きな前進をきりひらいたこと。

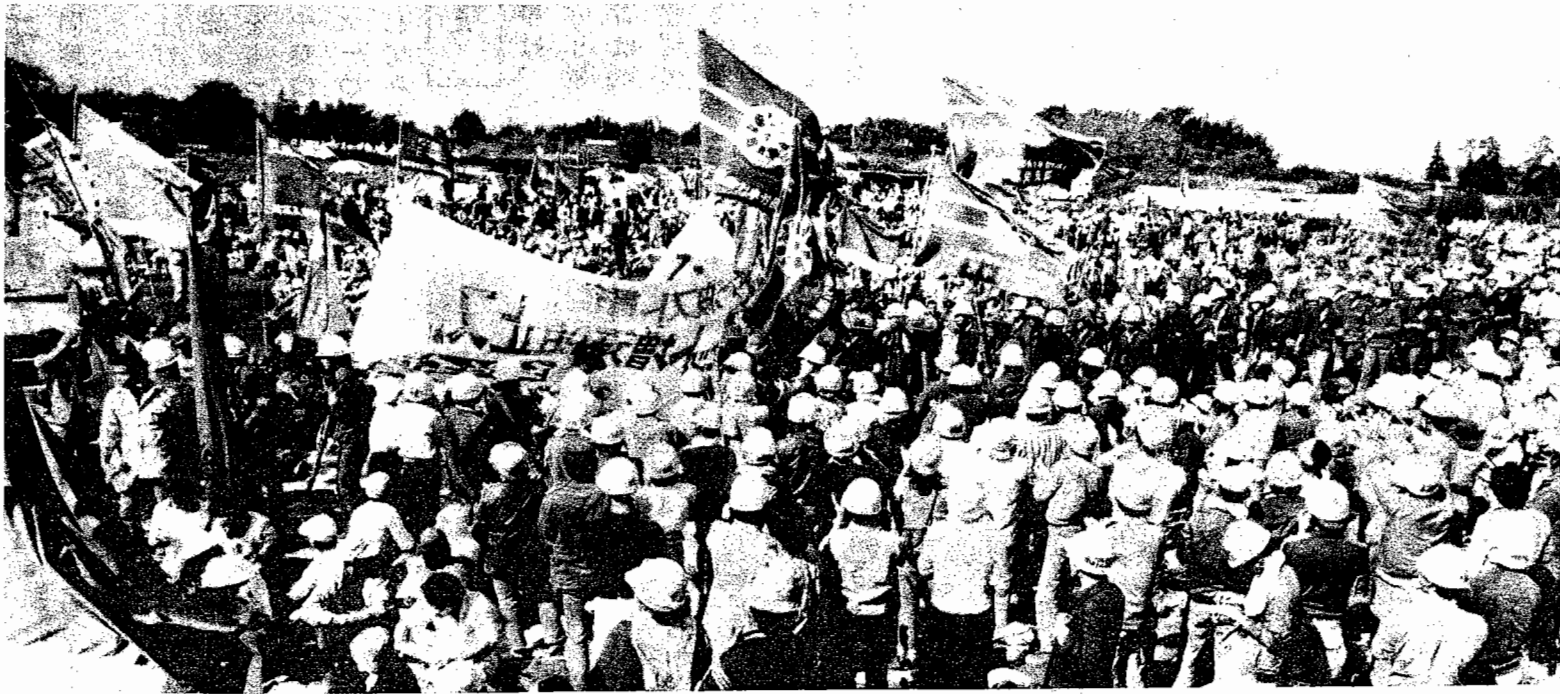
第四に 動労千葉のよびかけにより二月の準備会を経てひらかれた、「三・二全国労働者集会」の圧倒的成功にみられるように、今や、三里塚と動労千葉を両輪に、右翼的再編をつき破り八〇年代を闘う労働者の戦闘的全国潮流の形成が力強く前進している事。——これら全ての事実は、この八〇春闘を通してのわれわれの路線の着実な前進を証明している。

その対極で、「三里塚敵対を至上課題」にしてきた「本部」反動分子の今日の反動のかつ破綻的姿は、今や誰の眼にも明らかである。
彼らは、三五万人体制攻撃と闘う最重要の反合課題たる「乗務員運用合理化」との対決をこの八〇春闘の中で完全にはずし、卑劣にも春闘後五〇六月妥結↓五五・一〇全面屈服のルールを敷くという裏切りを準備し、それに対する職場の不信・不満を「目黒選があるから」と圧殺してまわっている。

「安定宣言路線」「既得権はき出し路線」なるものが、右翼民同の「賃上げ自衛路線」などをはるかに越えた「闘争自衛Ⅱ圧殺路線」そのものである事は、今や誰の目にもあきらかではないか！
「冬の時代論」「動労への謀略があるから闘わなす」「ストなし八〇春闘で動労のみが唯一ストを闘った」というケチなアライブづくりのかの三

月「スト」も、今や、大きくあてがはずれてしまったのである。——この一つの事実を見ただけでも、彼らの八〇春闘における反動性と破綻性は明らかなのである。

四月九日支部代における戦術決定を受けて、自信と確信をもって八〇春闘決戦段階の闘いに突入してゆこう。



—— いざ80年代へ！ —— (79・10・21 三里塚十余三集会)

新しい戦闘的全国潮流の形成をめざして